

# 人生の分かれ目に運動あり



## マシュー ホーランド

関西大学ビジネスデータサイエンス学部  
[565-8585] 吹田市山田南50-2  
准教授, 博士(工学).  
専門は機械学習, 確率的最適化, 統計的学習理論.  
<https://researchmap.jp/feedbackward>

筆者はカナダ西部のカルガリー市出身で、しかも専門分野は高分子とは縁もゆかりもなく、今をときめく人工知能(AI)を裏で動かしている機械学習アルゴリズムの基礎的な理論(確率的最適化、統計的学習理論)を得意とする。まさにダイバーシティである。これまでの紆余曲折を振り返ると、無事ではないにしても、ここまでたどり着くことができたのは「運動」のおかげだと痛感している。時系列に沿ってしばしお付き合いいただければ幸いである。

今からさかのぼること18年。大学2年生の頃、将来は弁護士になることを漠然と意識しながら、カナダ大手の石油会社に勤め、猛烈な社会勉強の最中であった。人も給料も良いが、原油価格の動向に極端に左右される危うい経営スタイルに対して、新米ながら危機感を覚えた。その上に現場視察の機会を得て、著しい環境問題を目の当たりにすると、思い描いていた自らの進路が真っ暗になった気がして、「このままではダメ」と留学を決意した。あのとき、躊躇なく動いたのが良かった。一文字にすると「動」である。

次、交換留学生として大阪にやってくると、知識ゼロだった日本語の勉強が楽しくて仕方ない。朝早く起きて、何時間も勉強して漢字を頭に叩き込んで、夜のミナミのライブハウスに行き、ひと味違う社会勉強をさせていただいた。これもまた「動」であり、机上の勉強ではなく、生きた日本語に触れる環境にいち早く飛び込んで、本当に良かった。実力がメキメキと伸びて、今に至る大きな財産になった。

1年の留学期間の終わりが近づくと、「帰りたくない」という意思が日増しに強くなっていく。全身にみなぎるエネルギー、せっかくの勢い……帰国してしまうことで、すべてが水の泡、という思いだった。非常識であっても、自分の直感を信じるほうなので、信頼している日本語の先生と相談して、名著の紹介と進学先の提案をいただいた。3年次編入試験に受かって、学部の「鞍替え」をした。かなり無謀とは言えるが、先生との信頼関係があつての決断だった。この出会いが私の歩みの起点で、まさに「運」である。

その後も、強烈な「運」が味方してくれる。実力はと

もなく、数学は昔から好きで、学部では数理統計学をどんどん吸収しようとしていたので、ゼミ選びの際は自然と数理統計関連のゼミを志望したが、なんと「志望理由が足りない」と言われて落選。教務の方と相談し、結局は学部一の個性豊かな教員の下へ配属されたが、これもまた大正解だった。企業に就職することを想定し、確率統計や経済学を中心に勉強していたが、先のひと悶着の余韻もあつてか、統計学界限はやや閉鎖的に感じたし、経済学は分野全体が完全に成熟しているように思えたので、2011年頃からひそかに機械学習の勉強をし始めた。確率統計の理論を使うし、プログラムも書くし、データさえあれば、どんな問題でも解けちゃう威力に感動しつつ、私の知的好奇心は完全に解放された。大学院進学を決め、信頼する例のゼミ担当教員の助言もあつて、合格していた経済寄りの一橋大学ではなく、機械学習と脳科学の最先端の研究をやっているNAISTの研究室へ進学した。おそらく人生最大の分岐点だったが、人との出会い、学問との出会い、すべてタイミングよく「運」が良かった。

大学院に入って素晴らしい指導者の下、どんどん研究にのめり込んでいくが、試練もあつた。中でもD2の秋に「もうすぐポストが空くよ」と大変魅力的なオファーを提示され、それに合わせるために大幅に研究計画を前倒しして、早期修了できるように必死に博士論文をまとめ上げたが、提出する寸前、「現任者がとどまることになった」と、儼く人事案件が消えた。私として空前絶後の繁忙期で、身も心もぼろぼろだったが、失ったもの以上に、大きな財産を得た。ヒマだと、行き詰まった研究のことをいくらでも悩み続けられるが、切羽詰まるとその余裕が一切なくなって、問題の本質を効率的に見極めるしかない。「運」と「動」が交差したこの出来事によって私の働き方が180度変わった。決断力と効率性が大幅に高まり、のちに上げてきた成果が今のキャリアの土台である。

最後に、20年近く続けている趣味はランニングである。早起きして、精一杯10キロを走る。この習慣の継続が真の自信の源であり、個別の「運」と「動」だけでなく、研究者にはやはり従来の「運動」も欠かせない!